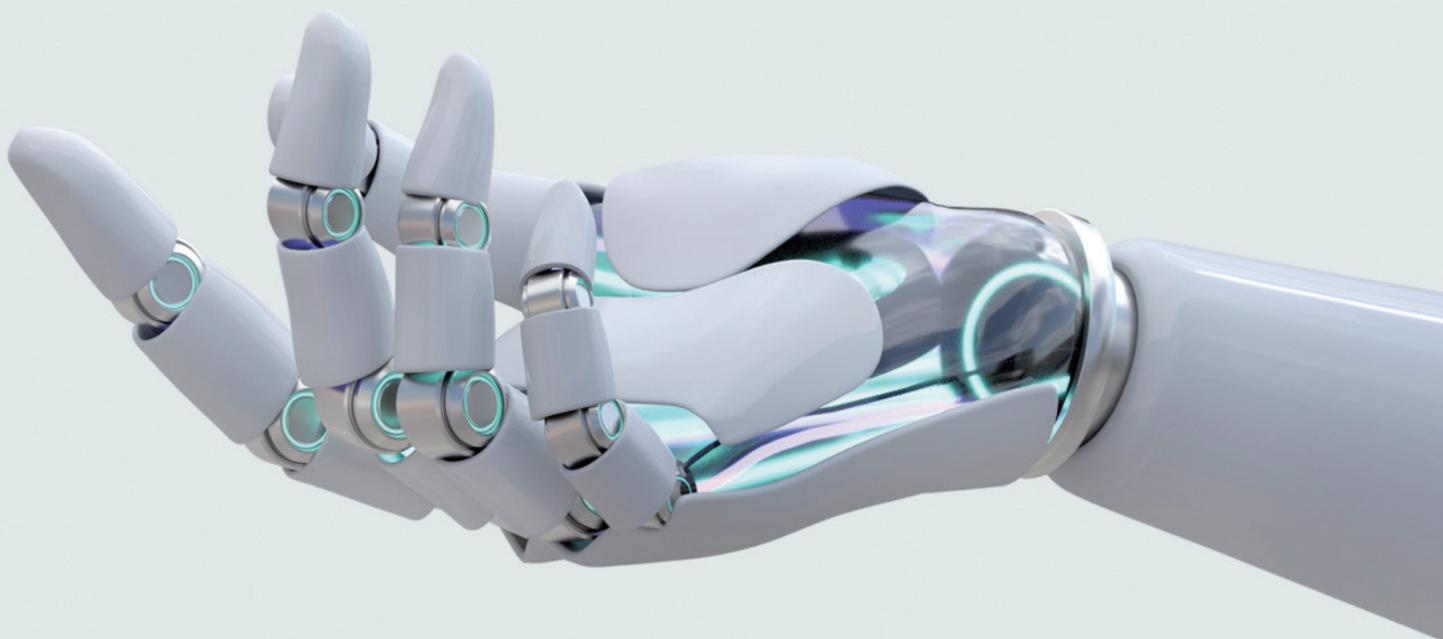


## 手術支援ロボットと これからの低侵襲治療



### 進化する、ロボット手術。

#### INDEX

#### 巻頭 特集

#### 関西医大のロボット手術

##### ■ 附属病院

センター長に聞く	木下 秀文	05
血友病包括診療のご紹介	松野 良介	06
術中脳・脊髄神経	齋藤 貴徳	07
モニタリングセンターのご紹介	安藤 宗治	

##### ■ 総合医療センター

ロボット支援手術センターの ご紹介	室田 卓之	09
コロナ禍を経て進化する 総合医療センターの 救急医療	徳原 克治 中森 靖 齊藤 福樹 吉原 智之 朴 幸男	11

##### ■ 香里病院

院長に聞く	岡崎 和一	13
新任部長に聞く	岩嶋 義雄	15

##### ■ くずは病院

関医トレーニングスタジオ ・くずはのご紹介	奥井 潤 野口 翔平	16
--------------------------	---------------	----

##### ■ 天満橋総合クリニック

新任医師に聞く	西村 久美子	17
---------	--------	----

##### ■ くずは駅中健康・健診センター

新センター長に聞く	浦上 昌也	18
-----------	-------	----



Report



腎泌尿器外科では  
ダヴィンチを用いて前立腺全摘出術・  
腎部分切除術など多くのロボット支援  
手術を行っており、従来の術式よりも  
優れた術後経過を辿っています。

ダヴィンチシリーズを用いたロボット支援手術では、人の手では不可能な動きができるロボットアームを用い、これまでの常識では考えられなかった角度からのアプローチを可能としました。また、手振れ防止機構により、術者の手の震えなどによる周辺臓器や血管損傷などのリスクを低下させ、非常に精緻な手術が可能になっています。他にも、裸眼立体視ができる術野映像によって通常の腹腔鏡手術では不可能だった奥行きを感じ取りながらの手術ができるなど、様々な面で手術の安全性を高めています。こうした高い安全性は、術中輸血例や周術期合併症の発生率の低さが物語っています。



確かな実績と歩み、そして次の地平へ

# 関西医大のロボット手術

2013年に北河内エリアで初めてとなったダヴィンチSiの導入以来、私たちは着実に手術成績とスキルを蓄積してきました。

また、2022年からは新たな手術支援ロボットを導入し、さらなる発展・進化を遂げています。

今回は、そんな私たちの「今」と「これから」をご紹介します。

## 前立腺全摘出術

Grade3  
以上の  
周術期合併症

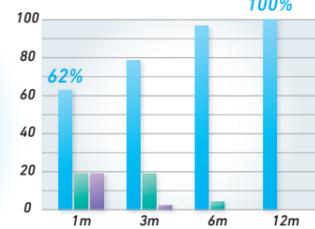
0

(直近300例)

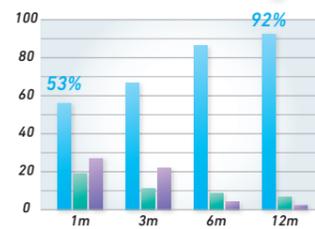
輸血例  
0.3%

以下

神経温存手術



神経非温存手術



尿失禁予防

- 退院時40%がほぼ失禁なし
- 1ヶ月で尿漏れパッド1枚使用62% (神経非温存術53%)
- 術後1年で100% (神経非温存術92%)
- 2枚以上使用者は0 (神経非温存術約5%)

## 腎部分切除術

Grade3  
以上の  
周術期合併症

0

(2021年実績)

阻血時間  
5分以上  
短縮

(腹腔鏡手術比)

輸血例  
0.5%

以下

仮性動脈瘤  
破裂

0.6%

以下

(通常2~5%程度)

## 消化管外科(胃)

2022  
6月開始



井上 健太郎 診療教授 コメント

ロボットの鉗子は先端が自由に曲がり、手振れもありません。脾臓などの周囲臓器を傷つけることなく、転移リンパ節を確実に切除することが可能になりました。

## 消化管外科(食道)

2021  
11月開始



山崎 誠 病院教授 コメント

食道がん手術では、椎体や気管など硬い組織の奥(左側)の操作が必須で、これまで不自由な体勢での手術を余儀なくされていましたが、ダヴィンチの関節機能によって、より精緻な手術が可能になりました。

## 腎泌尿器外科



木下 秀文 教授 コメント

2013年から1,300例超のダヴィンチ手術を行ってきました。安全で高精度の手術には症例数が非常に重要で、西日本有数の実績を上げていると自負しています。

山崎病院教授のこれまでの  
経験数 80例

前立腺全摘除術

1,051例

腎部分切除術

302例

※症例数は2022年10月までのもの

低侵襲

早期離床

予後良好

合併症低減



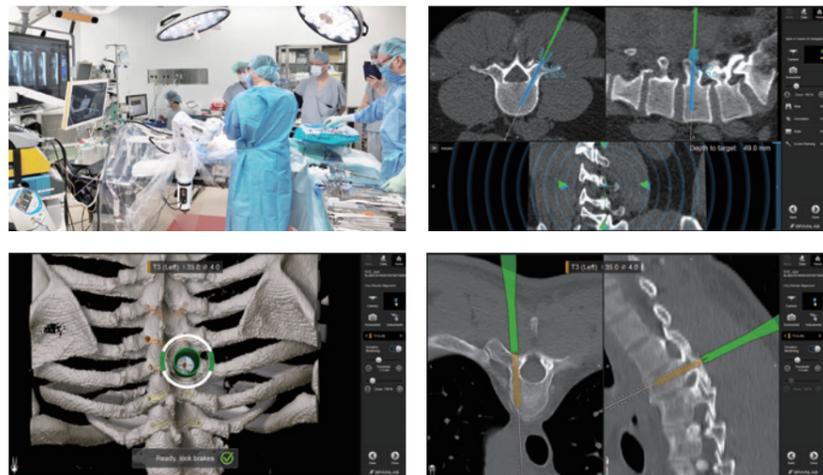
# 整形外科でも ロボット手術は、 新たなステージへ。

NEW!!

日本2例目の導入、Cirq Robot Arm。

## Cirq Robot Armは…

術中にCTを撮影し、ナビゲーション化。正確なPPS※の挿入位置を把握可能!!  
7軸に動く精密なロボットアームで、正しい位置へ正確にスクリューを誘導!!



関西医科大学附属病院は、整形外科領域における新たな手術支援ロボット・Cirq Robot Armを、日本で2例目の施設として導入しました。整形外科のさらなる手術精度の向上だけでなく、ますます低侵襲・早期回復が期待できる安全・安心な手術へと進化します。

※PPS…経皮的椎弓根スクリュー



### long ago

従来の背中を大きく開く手術では、多くの出血と手術時間が必要でした



### recent years

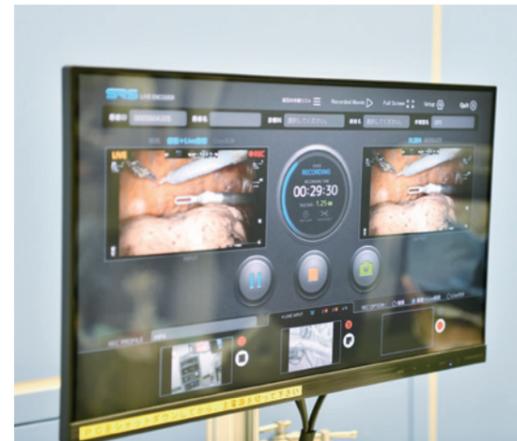
そこで、PPS®を導入し、低侵襲化と低負担を実現しました

### And now …



腹腔鏡手術と同様に患者さんに対して低侵襲な手術です。4、5ヶ所のトロッカー(手術器具の出し入れのための筒)を挿入しますが、いずれのトロッカーも3mm・12mmと小さな傷で、術後離床や日常生活への復帰も開腹手術と比較して短期間で可能です。さらに、術者に対する負担が軽減されるのも大きな特徴です。人間工学に基づいて設計された操作卓(コンソール)に着席して手術を行う術者だけでなく、手術助手も着座したままで手術ができ、医療者にとってもやさしい術式となっています。

教育面では実機にシミュレーションプログラムが装填されており、採点ゲーム形式で複雑なアーム操作を楽しみながら手技を習得することが可能です。また、コンソールは2台体制ですので、熟練術者の実際の手術を3Dで同時に見ることができ、開腹手術ではできなかった術者と全く同じ視野・視点



で術式を学ぶことができるようになっていきます。逆に若手が手術している際にも、熟練者が別のコンソールからリアルタイムで指導することが可能です。これらの機能をフル活用して、関西医大ではロボット手術に長けた若手医師育成を目指し、積極的に手術教育を行っています。

優れた機能と高い安全性、患者さんへの低侵襲性、医療者への負担軽減など全て兼ね備えたダ・ヴィンチですが、関西医大では附属病院に続いて総合医療センターにも導入し、さらなるロボット手術の普及に努めています。本学におけるロボット手術のこれから、将来像についてはP.5に「ロボット手術推進センター木下秀文センター長」のインタビュー記事でも詳しく解説していますので、ぜひ御覧ください。

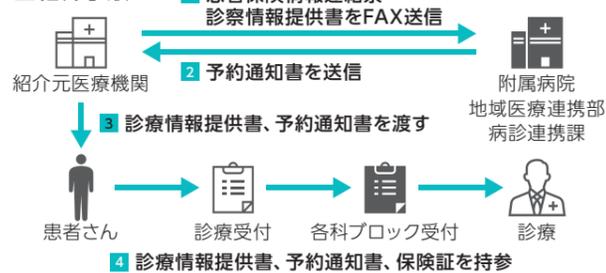


#### ダ・ヴィンチ Si 性能諸元

- 製造元: インテュイティブサージカル社(米国)
- 3DHDビジョン(1080p) (裸眼立体視で、体内を立体的に観察することができます)
- デュアルコンソール(操作卓を複数接続し、術者と助手が操作を共有可能)
- シミュレーション(非臨床環境における実機に近い仮想環境の再現教育)
- Firefly®イメージングシステム(リアルタイム近赤外光・可視光組織評価機能)
- アドバンスドインストゥルメンテーション

## ぜひ症例をご紹介ください

### ■紹介手順



- 1 患者保険情報連絡票・診察情報提供書にご記入いただき、FAX【072-804-2861】にて送信していただきます。
- 2 送信いただいた患者保険情報をもとに当院の患者IDを作成。予約をお取りして予約通知書を送信いたします。
- 3 患者さんに診察情報提供書と予約通知書をお渡しください。
- 4 患者さんは診察情報提供書・予約通知書・保険証を持って、予約時間の20分前までに総合受付の【地域医療連携窓口】にお越しいただけます。

※診療科、診療日、医師の指定がある場合は、FAXにご記入ください。  
※用紙請求については当院ホームページよりダウンロードいただくか、下部の連絡先にご連絡いただけますようお願いいたします。  
※受付時間 平日 8:30~20:00/土曜日 8:30~12:30

## TOPICS

## 総合医療センターに ロボット支援手術センターが設置されました

関西医科大学総合医療センターは2022年8月、ロボット支援手術センターが新たに設置されました。あわせて、第4世代「ダ・ヴィンチXi」が導入され、運用を開始しています。



### ダ・ヴィンチXi の特徴

- レーザー照射による適切な場所への設置をサポート
- アームの可動域を最大化するための調整を自動化
- 操作卓の術野映像は鮮明度や色調を調整可能
- 専用開発の電気手術装置「ERBE VIO dV」を搭載



関西医科大学 附属病院  
小児科 准教授  
**松野 良介**  
Ryosuke Matsuno

定期的な総合評価で  
血友病患者さんに  
安心を提供する

Speciality Service  
Interview

血友病包括診療のご紹介

当院では血友病患者さん・保因者の方を対象に「血友病包括診療」を年3回ほど実施しています。血友病では日常的な出血の管理が重要であり、慢性的な関節内出血は血友病関節症を併発しQuality of life(QoL)を損ねます。また遺伝性疾患であるために患者本人だけでなく、そのご家族の精神的な負担も問題になります。そこで私たちは、地域の血友病患者さんに健康人と変わらない日常生活を過ごしてもらうことを目標に、これまで5回の血友病包括診療外来を実施してきました。近畿圏内の私立大学病院としては初の試みであり、小児科、血液内科をはじめとする診療科の医師や看護師、薬剤師など多職種によるサポートを実現しています。当院の独自性として挙げられるのが、円滑なトランジションを目指す取り組み、関節評価、保

因者ケアです。特にトランジションは、患者さんごとに適切なタイミングが異なります。小児期には小児科が、成人期には血液内科が血友病患者の主要な診療科となりますが、当院では両科連携のもと併診期間を設け、患者さんの成長度に合わせた移行を実施します。関節評価については、関節内出血に由来する関節症の発症・進行を防ぐため、これまでも整形外科医の診療を行ってきました。加えて昨年春から導入したのが小児科医による関節エコーです。すでに自覚症状のない関節異常が見つかるケースが数件あり、治療方針を見直すきっかけになりました。この小児期の関節エコーは先進的な取り組みであり、全国的にも注目を集めています。保因者ケアについては、実は保因者も出血しやすいすったり、血友病(保因者)の赤ちゃんを出産する可

能性があつたりと、ご本人の不安を取り除くためにも病気への理解は欠かせません。当院では遺伝カウンセラー、婦人科医が専門的ケアを行っています。さらに、血友病患者さんは出血を避けようとするあまり歯科トラブルを抱えやすいといわれています。血友病に関する知識を有する歯科医師が対応できる点も当院の強みです。地域の小児科、内科に通う患者さんでも、ぜひ当院の包括診療をご活用ください。定期的な総合評価は、必ずや日頃の診療にお役立ていただけるものであると自負しております。今後血友病診療の連携地域中核病院として、患者さんのトータルケアに尽くしてまいります。



より安全で質の高い  
ロボット手術を提供すべく、  
体制を強化し、知識・技術を  
共有いたします

Speciality Service  
Interview

センター長に聞く

関西医科大学 附属病院  
腎泌尿器外科 教授  
ロボット手術推進センター センター長

**木下 秀文**  
Hidefumi Kinoshita

当院では2014年より腎泌尿器科を中心に、1,300例を超えるロボット支援手術を行ってまいりました。西日本でトップクラスの手術件数を誇り、医師、看護師、臨床工学技士などスタッフ一同が熟練の技術を身に付け、非常に質の高い手術が実施できていると自負しております。

私自身は600以上の症例を経験しており、このたび当院ロボット手術推進センターのセンター長に就任しました。当センターの役割は、各診療科におけるロボット支援手術の導入サポートと、ハイレベルな技術力の維持、質を向上する活動の後押しです。特に重要だと考えているのが質の向上であり、具体的には診療科を超えた症例カンファレンスを推進してまいります。手術チームに求められる重要な技量のひとつにイレギュラーな事態への対応力があります。ロボット支援手術でいえば、術中におけるロボットの意図しない停止や故障に対するトラブル

ルシューティング、出血時の処置法などです。まれにしか起こらないことを個々の医師が経験することは難しいですが、互いの経験を共有して活かすべく総合医療センターも含め、ロボット支援手術を実施する全ての診療科横断的な症例検討会を行います。将来的には関西医大の関連病院だけでなく、ロボット支援手術を行う北河内エリアの病院に向けた情報発信や共同勉強会を実現できれば、より多くの患者さんに貢献できると考えております。

現在、当院では腎泌尿器外科、消化管外科(食道・胃・婦人科・整形外科)でロボット支援手術を実施しており、間もなく直腸がんへの手術が始まります。さらに、日本ではまだ珍しい膵臓、肝臓領域でも導入を検討しております。引き続き、より安全で精度の高いロボット支援手術手技の確立と、患者さんにとってやさしい手術の普及を目指します。情報発信にも鋭意取り組んでまいりますので、ぜひご注目いただき患者さんを紹介いただけますようよろしくお願い申し上げます。



ダヴィンチ手術室

PROFILE

- 1988年3月 京都大学医学部 卒業
- 1988年6月 京都大学医学部附属病院 泌尿器科 研修医
- 1990年4月 倉敷中央病院 泌尿器科 医員
- 1996年11月 米・Wisconsin州立大学 Madison校 リサーチフェロー
- 1999年7月 大阪赤十字病院 泌尿器科 医員
- 2000年4月 京都大学医学部附属病院 泌尿器科 助手
- 2003年4月 京都大学医学部 講師
- 2004年4月 関西医科大学 腎泌尿器外科 准教授
- 2014年8月 関西医科大学 附属病院 病院教授
- 2021年4月 関西医科大学 腎泌尿器外科 主任教授
- 2021年4月 関西医科大学 附属病院 ロボット手術推進センター センター長
- 2022年4月 関西医科大学 地域医療センター センター長、関西医科大学 附属病院 地域医療連携部 部長

告知 血友病包括診療

次回実施日:2023年3/18(土)・7/29(土)

当院がかかりつけではない患者さんも受診していただけます。地域の先生方のもとへ通院されている患者さんがいらっしゃればご紹介ください。



PROFILE

- 2003年5月 昭和大学病院 小児科
- 2004年7月 昭和大学附属豊洲病院(現・昭和大学江東豊洲病院) 小児科
- 2005年5月 総合高津中央病院 小児科
- 2006年5月 昭和大学医学部 第一解剖教室(大学院)
- 2007年4月 昭和大学藤が丘病院 小児科
- 2009年4月 埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科
- 2011年4月 昭和大学藤が丘病院 小児科
- 2015年4月 ロサンゼルス小児病院 病理学教室
- 2017年4月 昭和大学藤が丘病院 小児科
- 2020年4月 関西医科大学 附属病院 小児科

術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター 各Dr.の紹介

Speciality Service Interview

術中脳・脊髄・神経モニタリングセンターのご紹介



関西医科大学附属病院  
整形外科 病院教授  
術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター  
センター長

**安藤 宗治**

Muneharu Ando

PROFILE

- 1985年3月 和歌山県立医科大学医学部 卒業
- 1985年4月 和歌山県立医科大学 研修医
- 1987年4月 和歌山県立医科大学大学院 医学研究科(外科系) 入学
- 1988年8月 米国アイオワ大学神経内科臨床電気生理部門リサーチフェロー
- 1991年3月 和歌山県立医科大学大学院 医学研究科(外科系) 修了
- 1991年4月 国保橋本市民病院 整形外科
- 1994年4月 和歌山県立医科大学 整形外科 助手
- 2001年5月 新宮市立医療センター 整形外科 部長
- 2002年11月 和歌山県立医科大学 整形外科 講師
- 2007年4月 和歌山労災病院 脊椎センター長、整形外科 部長
- 2018年1月 和歌山労災病院 副院長
- 2018年7月 関西医科大学総合医療センター 整形外科 病院教授
- 2019年4月 関西医科大学 整形外科 病院教授
- 2022年11月 関西医科大学附属病院  
術中脳・脊髄・神経モニタリングセンターセンター長

Speciality Service Interview

術中脳・脊髄・神経モニタリングセンターのご紹介



関西医科大学附属病院  
整形外科 教授

**齋藤 貴徳**

Takanori Saito

PROFILE

- 1983年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1983年5月 関西医科大学 整形外科教室 入局
- 1985年1月 関西医科大学 整形外科教室 助手
- 1985年3月 関西医科大学 整形外科教室 助手退職
- 1989年4月 米国アイオワ大学神経内科臨床電気生理部門リサーチフェロー
- 2000年5月 関西医科大学 整形外科教室 助手
- 2004年11月 関西医科大学 整形外科教室 講師
- 2005年8月 関西医科大学附属山形病院 整形外科 部長
- 2007年7月 関西医科大学附属滝井病院  
(現・関西医科大学総合医療センター) 整形外科 部長  
関西医科大学 整形外科教室 准教授
- 2009年7月 関西医科大学 整形外科教室 准教授
- 2009年11月 関西医科大学附属滝井病院 整形外科 病院教授
- 2017年4月 関西医科大学 整形外科講座 主任教授
- 2020年4月 関西医科大学附属病院 副病院長

齋藤 すでにアメリカでは、術中モニタリングがあつて当たり前のものでなっています。日本では認知度がまだまだ低いものの、神経関係の手術を安全に実施するための力ギとなる技術である

安藤 病院として提供できる医療サービスの手厚さが増すのはもちろん、患者さんにとってより安心な手術の実施は、地域医療への貢献に繋がると考えております。これまでは携わる臨床検査技師、臨床工学技士の人員が十分といえず、モニタリングの実施件数も絞らざるをえない状況でした。しかし、術中モニタリングに力を入れていくという当院の姿勢の表れとして当センター設立に至った今、スタッフを増員し、各診療科からのモニタリングの要望に応えてまいります。

「術中モニタリングの安心」を当たり前前に

域における疾患では手術の際にどうしても泌尿器系の神経を触るため、術後に排尿障害や排便障害が出る場合があります。また心臓血管外科領域の大動脈手術の際にも、血流不足による脊髄中の神経ダメージのリスクが生じます。これらを回避するために術中モニタリングが有効となるケースが多く、私たちはセンター設立を機に院内での周知、対応診療科の拡大、技術力向上のための環境づくりを進めてまいりました。現在は術中モニタリングが可能な診療科十麻酔科で委員会を組織し、医師・臨床検査技師・臨床工学技士・看護師が集まって症例検討や勉強会を実施しています。



術後の神経障害リスク  
ゼロを目指し、  
術中モニタリングを  
推進します

センター設立の趣旨

安藤 昨年11月、術中脳・脊髄・神経モニタリングセンターを設立いたしました。当院における手術中の神経モニタリング（以下、術中モニタリング）の推進を図り、より安全な手術の普及を実現してまいります。よろしくお願いたします。

齋藤 近年は手術機器、医療技術の発展に伴い、より難易度の高い手術が施行されるようになってきました。それに伴い術後に種々の神経障害が生じるリスクのある手術も増えており、もし運動麻痺や聴覚障害、視覚障害といった神経機能の術後合併症が生じた場合には患者さんの日常生活動作（ADL）や生活の質（QOL）が著しく低下してまいります。そこで必要となるのが術中モニタリングです。術中モニタリングは、手術の際にそれぞれの神経に応じた誘発電位を測定し、神経機能を評価します。神経に負荷がかかると波形の変化として現れるため、手術を一時中断して神経の回復を待つなど、術中の神経損傷をできる限り回避することが可能になります。

安藤 患者さんにとって術中モニタリングは術後良好な状態での帰国という大きなメリットがあります。現在当院では整形外科、脳外科を中心に脊髄、脳の神経モニタリングを行っています。他領域の疾患に対してもこの手法を広め、ぜひ当院における術中モニタリングを推進、拡充していきたい。そういった思いから当センターの創設に至りました。

国内トップランナーとして

安藤 齋藤医師と私は30年以上にわたり国内における術中モニタリングの発展に寄与してまいりました。齋藤医師は日本臨床神経生理学会で術中脳脊髄モニタリング委員会を立ち上げ、委員長を務めておられ、私は委員会の発足当初からメンバーとして共に活動してきました。

齋藤 学会内の委員会を発足したきっかけは、術中モニタリングの普及や携わる医療スタッフのレベル向上を目的としたセミナー開催のためであり、そのセミナーは年1回ずつ計9回、すべて関西医科大学附属病院で実施してきました。その背景からも当院は術中モニタリングにおいて国内のトップランナーとして認められており、新たな手術の開発にも注力しています。

安藤 術中モニタリングはこれまで脳外科整形外科領域に限定して発展してきた手法ですが、たとえば消化管外科や泌尿器科、婦人科領

り、とても重要なものであると私たちは考えます。当センターでは、当院における術中モニタリングの対象拡大はもちろん、業界全体のレベルの格上げ、情報発信にも力を入れ、これからも業界を牽引していくように努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

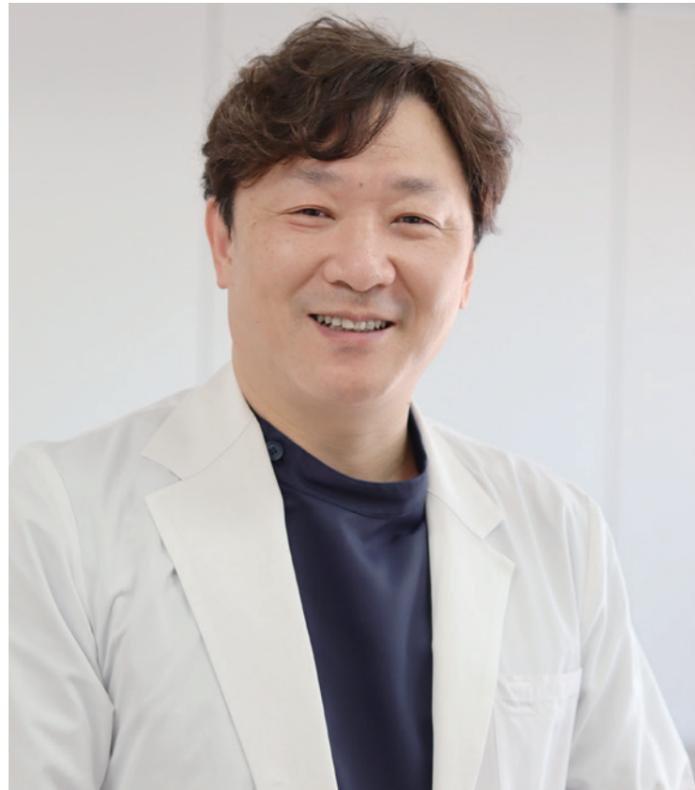
術中モニタリングの対象となる可能性のある疾患

脳腫瘍	脳動脈瘤
脊髄腫瘍	頸椎疾患
胸椎疾患	脊柱側弯症
頭頸部腫瘍	大動脈瘤
骨盤内腫瘍	後腹膜腫瘍

など



総合医療センター ロボット支援手術推進の取り組み



多職種で一丸となり、  
より安全・スムーズな  
ロボット支援手術を  
実施しています

Speciality Service  
Interview

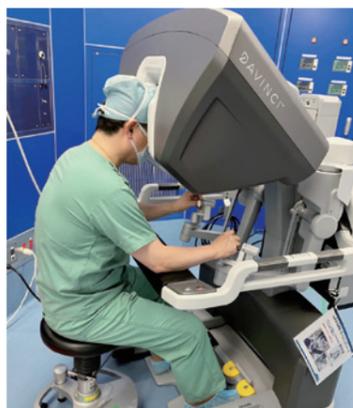
ロボット支援手術センターのご紹介

関西医科大学総合医療センター  
消化管外科 准教授  
ロボット手術支援センター センター長

**徳原 克治**

Katsuji Tokuhara

手術支援ロボットの普及が今後さらに加速すると目される中、当院でも昨秋「ダヴィンチ」シリーズの最新型を導入し、消化管外科、泌尿器科で手術の実績を重ねてまいりました。ロボット支援手術が腹腔鏡手術に比べて大きなアドバンテージを持つのは、精緻な手術操作を可能にする点です。腹腔鏡手術では直線的で可動領域が限られる鉗子を使用するのに対し、ロボット支援手術で用いるのはきめ細やかに処置できる多関節アーム。そのため手術部位の組織にストレスをかける機会が最小限で済み、結果としてより低侵襲な手術となっています。また、患者さんにとってのメリットはそれだけではなく、術後の合併症が少なくないというデータがあり、特に私の専門領域である直腸がんにおいては腹腔鏡手術よりもロボット支援手術の方が術後の排尿障害の発症数が抑えられているとの報告を確認しています。患者さんのQOL向上のためにも、よりやさしい手術といえるでしょう。消化管外科においては現在直腸がんのみの実施ですが、今後、結腸がんや食道がん・胃がんなど保険適用済みの手術を順次導入していく予定です。



ダヴィンチ 術者

PROFILE

- 1996年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1996年5月 関西医科大学 外科 入局
- 2008年4月 関西医科大学附属枚方病院(現・附属病院) 外科 助教
- 2012年4月 関西医科大学附属枚方病院(現・附属病院) 外科 診療講師
- 2014年4月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 外科 診療講師
- 2015年5月 関西医科大学総合滝井病院(現・総合医療センター) 外科 講師
- 2016年5月 関西医科大学総合医療センター 外科 病院准教授
- 2017年4月 関西医科大学総合医療センター 地域医療連携部 部長
- 2021年4月 関西医科大学総合医療センター 骨盤機能センター センター長
- 2023年1月 関西医科大学総合医療センター 消化管外科 准教授
- 2023年4月 関西医科大学総合医療センター ロボット支援手術センター センター長

対応診療科を拡大し、  
ロボット支援手術でも  
頼っていただける病院へ

Speciality Service  
Interview

ロボット支援手術センターのご紹介

関西医科大学総合医療センター  
ロボット手術支援センター 顧問

**室田 卓之**

Takashi Murota



ダヴィンチ 手術室

当院では昨春秋より腎泌尿器外科 消化管外科においてロボット支援手術を実施しています。病院の規模からすると、当院のロボット導入は決して早いとは言えません。地域の先生方、患者さんにはお待たせしてしまいましたが、心苦しく思っておりますが、このたび導入した手術支援ロボット「第4世代ダヴィンチXi」は泌尿器科、消化管外科だけでなく呼吸器外科、婦人科など広い領域に活用できる最新鋭のモデルであり、これから当院がロボット支援手術に力を入れていくという決意の表れであるとお受け取りいただけますと幸いです。ロボット支援手術においても地域から頼りに思っていた存在となるべく、ロボット支援手術センターでは外科系診療科の連携の下、関連スタッフの教育および臨床研究を推進してまいります。

さて、改めてロボット支援手術の主な利点にふれますと、より低侵襲で安全な手術であることと、医師のクセが出にくく均一なレベルで実施できる点が挙げられます。これらが患者さんにもたらすメリットはとても大きい。ただし、ロボット支援手術は最先端の手法ではあるもの

PROFILE

- 1984年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1984年6月 関西医科大学 泌尿器科 研修医
- 1984年12月 関西医科大学 泌尿器科講座 助手
- 1987年1月 関西医科大学附属香里病院 泌尿器科 外来医長
- 1991年4月 関西医科大学附属洛西ニュータウン病院 泌尿器科 医長
- 1996年10月 関西医科大学附属香里病院 泌尿器科 外来医長
- 2001年6月 関西医科大学 泌尿器科学教室 講師
- 2002年4月 関西医科大学附属香里病院 泌尿器科 部長
- 2006年1月 関西医科大学附属滝井病院(現・関西医科大学総合医療センター) 腎泌尿器外科 診療部長、医療安全管理部 部長(併任)
- 2008年4月 関西医科大学附属滝井病院 中央手術部 部長(併任)
- 2011年3月 関西医科大学附属滝井病院 副病院長
- 2012年4月 関西医科大学附属滝井病院 地域医療連携部 部長(併任)
- 2018年4月 関西医科大学総合医療センター 病床運営管理部 部長(併任)
- 2022年7月 関西医科大学総合医療センター ロボット支援手術センター センター長
- 2023年4月 関西医科大学総合医療センター ロボット支援手術センター 顧問

の、あくまで手段の一つです。さまざまな疾患領域によってロボット支援手術が主流になるといわれていますが、現状では開腹手術が適しているケースもあります。疾患、状態によって最適な手術法を見極めることが重要であり、その点に鑑みずと、開腹・内視鏡・ロボットという選択肢が揃っているのは当院の強みといえます。

ダヴィンチの導入以来、私の専門領域である泌尿器科では着実に実績を重ねており、現在手術が必要な泌尿器科疾患はすべてカバーできる体制を整えました。次のミッションは、対応診療科を拡大するとともに保険適用の術式を増やすことだと考えており、積極的に施設認定を取得してまいります。患者さんにとってのメリット、地域医療のニーズを最大限に考慮して組織体制を整えてまいりますので、今後ともよろしく願っています。

齊藤 福樹 PROFILE

- 2000年3月 関西医科大学 卒業
- 2000年4月 関西医科大学附属病院救急医学科 臨床研修医
- 2003年2月 市立岸和田市民病院 救急診療科 医員
- 2004年12月 R Adams Cowley Shock Trauma Center at the University of Maryland
- 2005年2月 関西医科大学附属病院救急医学科 助手
- 2007年4月 田附興風会北野病院医学研究所 研究員
- 2009年3月 関西医科大学大学院医学研究科 修了
- 2013年12月 関西医科大学 救急医学講座 講師
- 2014年1月 関西医科大学附属滝井病院 救急医学講座 准教授
- 2015年4月 関西医科大学総合医療センター 外傷センター センター長
- 2016年4月 関西医科大学総合医療センター 救命救急センター センター長

も、一人でも多く対応すべくスタッフ一同がむしやらに進んでまいりました。

当院はコロナ陽性の方の手術件数で国内トップクラスです。それを可能にしているのが、まず南館が病院本館とは独立した建物で動線を完全に分離できたこと。そして当院で導入済みだった先進的なデュアルルーム型ハイブリッドERの存在です。ハイブリッドERは2つの部屋を行き来しながら救急初期診療、術中CT撮像できるシステムを構築しているため、施設内でコロナ患者さんと一般患者さんの動線を分けるだけで並行して診ることが可能になっています。建物の構造と先進的な設備、そしてスタッフ一同の努力。三拍子が揃ったことで、コロナ患者さんと一般患者さんの診療を両立できました。

世間ではウィズコロナと言われるようになって久しいですが、医療現場はまだまだどうなるかわかりません。当院では今後もコロナ陽性者用スペースを確保しつつ、状況を注視して一般救急の受け入れを拡大していければと考えています。



Doctors' Interview  
コロナ禍を経て進化する  
総合医療センターの救急医療

これまで総合医療センターでは、コロナ患者さんの診療に傾注しつつ、一般救急症例も可能な限りお受けできるよう、大阪コロナ重症センターの設置や柔軟な病床運営に努めてまいりました。今もなお変わり続ける状況において、総合医療センターの救急医療はどう進化していくのか。現場に携わる4名の医師がコロナ禍を振り返り、これからについてお話しします。



もっと頼っていただけのセンターであるべく、私たちはより強くなります

コロナ禍における地域の病院の課題は、搬送されてくる患者さんが行政の定めたルールで振り分けできない場合にご対応するかという点でした。搬送先が決まらない患者さんが増える中、混乱が続く救急現場を何とかしたい。その思いで、当院では2021年より「救急車トリアージ」を実施。2022年には地域病院を巻き込んで大阪府にかけ合い、救急コロナ市モデル」を構築。現状として、この取り組みはうまく機能していると自負しております。

当院の緊急受入体制の変遷を振り返ってみれば、コロナ患者さんの診療に注力しつつ、一



私たちの体制はもちろん地域の医療機関との関係も進化させていく

新型コロナウイルス感染症は医療現場に未曾有の危機をもたらしました。当初は流行の波が数年間続くと予想されておらず、また波ごとに患者さんの傾向にも変化が見られたことから、医療機関はその規模にかわらずさまざまな苦勞を抱えたことと思います。

間もなく新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行するといわれており、当院を含む地域の医療機関の受入体制は、さらなる変化を余儀なくされるでしょう。

ここで私が考えるのは、新たな状況においては、これまで以上に地域連携が重要になるだろうということです。ぜひ知見や情報、思いや

般救急症例も可能な限りお受けできるよう最大限の努力を払ってまいりました。刻々と変化する世間のニーズをくみ取りながら柔軟な病床運営を心がけ、現在もコロナ病床と一般救急病床のバランスについて検討を重ねております。

コロナ禍での学びを糧に、私たち救命救急センターはさらに強くならねばなりません。現在、救命救急センターでは既存施設の建て替え計画を進めています。新興感染症の流行や大規模災害の発生にも対応できる医療機能を有し、最新鋭の設備・機器を備えたセンターへと進化する予定です。より多くの救急を受け入れられる構造、体制を構築しますのでご注目ください。

中森 靖 PROFILE

- 1995年3月 大阪大学医学部医学科 卒業
- 1995年6月 大阪大学医学部附属病院 特殊救急部 研修医
- 1996年6月 大阪警察病院 外科 レジデント
- 1998年6月 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 医員
- 2003年8月 大阪府立急性期・総合医療センター 高度救命救急センター 診療主任
- 2004年3月 大阪大学医学部医学研究科 大学院 卒業
- 2011年4月 大阪府立急性期・総合医療センター 高度救命救急センター 副部長
- 2013年4月 関西医科大学 救急医学講座 准教授
- 2013年11月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 病院教授、救急医学科部長
- 2016年5月 関西医科大学総合医療センター 総合集中治療部 部長
- 2017年4月 関西医科大学 救急医学講座 診療教授
- 2019年4月 関西医科大学総合医療センター 副病院長
- 2021年1月 関西医科大学総合医療センター ゲノム解析センター センター長

吉原 智之 PROFILE

- 2000年3月 大阪大学医学部医学科 卒業
- 2000年6月 大阪大学医学部附属病院 特殊救急部 臨床研修医
- 2001年6月 錦秀会阪和記念病院 内科(循環器・脳卒中)
- 2006年11月 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター
- 2007年3月 大阪大学大学院 医学系研究科 博士課程修了
- 2007年11月 順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科
- 2009年4月 埼玉医科大学国際医療センター 脳血管内治療科
- 2013年12月 流山中央病院 脳神経外科
- 2018年4月 大阪脳神経外科病院
- 2020年5月 関西医科大学総合医療センター 救急医学科 助教
- 2020年7月 関西医科大学総合医療センター 脳卒中センター 副センター長
- 2021年4月 関西医科大学総合医療センター 診療講師

悩みを共有し、密なコミュニケーションからこれまでの関係を進化させていきたい。そうすることがより安心な地域医療の構築に繋がると確信しております。どうぞよろしくお願いたします。



循環器腎内分泌代謝内科 診療部長  
朴 幸男  
Haengnam Park

朴 幸男 PROFILE

- 1997年3月 韓・釜山大学校 医学部医学科 卒業
- 2000年4月 関西医科大学附属病院(現・総合医療センター) 第二内科(循環器腎内分泌代謝内科) 入局
- 2004年8月 新宮市立医療センター 循環器内科(医長)より帰向
- 2007年4月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 第二内科 助教
- 2012年4月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 第二内科 外来医長
- 2016年4月 関西医科大学総合医療センター 第二内科 講師
- 2017年4月 関西医科大学総合医療センター 病棟医長
- 2022年4月 関西医科大学総合医療センター 第二内科 准教授、循環器腎内分泌代謝内科 診療部長

日頃より「断らない病院」を目標にしている当院ですが、それはコロナ禍でも変わらず、常に可能な限り患者さんを受け入れるべく努めておりました。救急搬送されてくるコロナ陽性の患者さんは救命救急センターが一元的に診療にあたっていたため、私をはじめとする診療科医師は救急のサポートにあたっておりましたが、当院がこれまで大きな混乱なく運営を続けられたのは、ひとえに救急救命科の先生方の尽力の賜物だと考えております。

コロナ禍における救急外来が特殊だったのは、PCR検査の結果が判明するまで患者さんの移動ができないことでした。しかし齋藤医師もコメントしているように、当院は陽性者と一般患者さんを分離して診療できる環境とハイブリッドERがあったため、検査結果を待つタイムラグを短縮できた点が非常に有利に働きました。



大阪コロナ重症センター(コロナ病床)



ハイブリッドERが可能にした救急におけるコロナ一般の並行診療

私たち救命救急センターは、救急車からの搬送依頼で患者さんを受け入れることが仕事です。この3年間のコロナ禍でもその大前提のもと、コロナ患者さんもそうでない患者さん



香里病院

当院を頼っていただく患者さんたちに、少しでも大きな安心と快適をお届けしたい。その思いから患者サービスの充実にも取り組んでいます。一例として、今年1月より個室機能をもつ準備室を全病棟に設置しました。これは間仕切りシステム家具を設置した4部屋で、カーテンによる従来の間仕切り比べてプライバシー性

地域の皆さんに開かれた病院へ

南海トラフなど危惧されている巨大災害を想定し、災害に強い病院としても備えを進めています。寝屋川市と医師会の協定に基づき、非常時の備えた設備や備品を確保。当院は災害拠点病院ではありませんが、万が一のときには救護所としてしっかり機能できるように環境を整えました。また、当院の腎臓病センターでは入院・外来ともに維持透析を実施しています。災害時にも継続して透析を受けていただくには、上水道の確保が最も重要になります。そこで昨年から敷地内に井戸を掘削し、今春より万が一の際には井戸水をバックアップ用の水源として使用できるように備えています。

災害に強い病院へ

機能を搭載しています。他にも血液や尿、便、細胞などを調べる検査機器もすべて一新する予定となっており、これまで以上に来院される皆さんのお役に立てることを願っています。



GE Revolution Frontier

他にも、寝屋川市とタイアップした新しい取り組みとして、ふるさと納税の返礼品に当院の乳がん検診の提供を始めました。これは一人

さらに、患者さんにやさしい病院へ

が高い点が大きな特徴です。家具によって収納スペースもしっかり確保できるので、より快適な療養環境でお過ごしいただけます。また新しい医療サービスとして、足の爪処置の専門外来を開設する予定です。ご自身で足の爪を切ることができない方に向けて、医師・看護師で構成するフットケアチームが対応します。手が届かない、目が見えない、もしくは巻き爪や爪が厚くなって切れない、爪が変形しているなど、これまで爪の処置にお困りだった方々のお役に立てることと思います。



準個室

も多くの方に、敷居の低い病院であるべく、当院をご利用いただければという思いからです。ご存じのように寝屋川市には市民病院をはじめとした公立・公的病院が存在しません。地域の皆さまに望んでいたが、再開した歴史を持つ当院としては、皆さまに親しまれる、どなたにとっても利用しやすい病院であることが常に最重要課題であると考えております。これからもいつ、いかなる状況でも、医療を必要とする方々のお役に立てるよう、体制・設備の充実を図っていく所存です。



地域密着型の中核病院として  
できることを全力で。  
体制・設備の拡充を進めています

Hospital Director Interview  
病院長に聞く

関西医科大学香里病院  
病院長

岡崎 和一  
Kazuichi Okazaki

香里病院は、大学病院として、がんや難治性疾患、専門性の高い診療に取り組みつつ、地域密着型の中核病院として皆さまに安心、充実の医療を提供できるよう努めております。今回は、当院が目指す姿と取り組みについてご紹介いたします。

「断らない病院」を目指した診療強化

当院は運営理念として「断らない病院」を掲げています。その実現に向け、診療体制の強化を続けてまいりました。まず2021年10月に内科・総合診療科を開設し、2022年1月より夜間救急受け入れ体制（ER）をスタートしました。今年度は現場をさらに充実させるべく、内科医、総合診療医の医師の増員を進めています。当院は関西医科大学附属4病院の総合診療専門人

材の育成拠点としての役割も担っており、地域医療に貢献できる総合医を育成する拠点としても存在感を發揮していきたいと考えています。次に、アレルギー性疾患の患者数が増えつつある近年の状況に鑑み、この4月にアレルギーセンターを開設します。診療には耳鼻科、小児科、内科（呼吸器・膠原病）、皮膚科、眼科が連携して臨み、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息、アレルギー性鼻炎をはじめさまざまな症例に質の高い医療サービスを提供します。院内のみならず関西医科大学系列内での横断的な情報共有、診療にあたってまいりますので、もしアレルギーでお困りの患者さんがいらっしゃればお声がけください。

また、検査体制も従来からさらに手厚くなります。近く最新鋭のCT装置、MRI装置を導入予定であり、特にMRIは、PET・CTに代わる次世代検査法として注目を集めるDWI

PROFILE

- 1978年3月 京都大学医学部 卒業
- 1986年11月 医学博士(京都大学)
- 1988年4月 ニューヨーク医科大学 客員研究員
- 1989年4月 州立ニュージャージ医科大学 客員研究員
- 1995年5月 高知医科大学 助教授
- 1996年11月 京都大学大学院医学研究科・光学医療診療部 助教授
- 2003年4月 関西医科大学附属病院 内科学第三講座 主任教授
- 2003年4月 関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 診療部長
- 2010年4月 関西医科大学附属病院 副病院長
- 2019年6月 関西医科大学附属病院 難病センター長
- 2020年4月 関西医科大学香里病院 病院長



関医トレーニングスタジオ・くずはのご紹介

関医トレーニングスタジオ・くずは

主に高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病やサルコペニアなど運動の継続が望ましい方、手術後のため一人で運動するのが不安な方などに対し、運動習慣を提供しています。

- 場所:くずは病院4階
- 営業日:毎週月～金(祝日、年末年始を除く)
- 営業時間:17時15分～18時30分
- 費用:月額8,000円/体験利用は1回1,000円



Speciality Service Interview

体を動かす、最初の一步を踏み出す場所として

理学療法士  
**野口 翔平**  
Shohei Noguchi

PROFILE

2017年3月 関西医科大学大学院 保健医療学研究科修士  
2022年4月 認定理学療法士(運動器)取得

運動習慣のなかった方にとって、ジムに通う、体を鍛えることは大変ハードルの高いものだと思います。特に持病や人工関節の手術歴があるといった場合、自分に合う運動を見極めること

も難しいでしょう。そんな方々に向けて、「できることから少しずつ」のお手伝いをしているのが当スタジオです。マシンはリハビリでも使用するものを用い、筋力トレーニング、有酸素運動が中心。臨床で患者さんを診ている理学療法士が指導見守りを行い、運動前後に血圧測定や健康状態のチェックを、また定期的にデータの測定を実施します。

個別の運動提案と管理栄養士の助言、これらによって変化を感じていらっしゃる方が多く、ご利用者さんの「体の調子が良くなってきた」という言葉がやがやります。これからも内容の充実を図りながら、運動に前向きに取り組んでいただくための後押しをしてまいります。



Speciality Service Interview

運動習慣のサポートを新たな地域貢献に繋げたい

管理栄養士  
**奥井 潤**  
Jun Okui

PROFILE

資格…●病態栄養専門管理栄養士  
●日本糖尿病療養指導士

昨年6月より「関医トレーニングスタジオ」くずはの運営を開始しました。当スタジオはご利用者さんに、健康的に生活するための習慣を身に付けていただけるよう運動と食事の両面か

らサポートする施設です。理学療法士による運動指導だけでなく、管理栄養士による個別の栄養相談や集団での栄養教室も実施。たとえば生活習慣病やサルコペニア、フレイルといった症状を抱えている方、回復期リハビリ病棟の退院後の方など、街のスポーツジムでは対応が難しい場合がありますが、当スタジオではどなたでも無理なく安心して取り組んでいただける環境を整えています。

当院から地域の先生方のもとへお帰りいただいた患者さんでも、運動不足を気にする方がいらっしゃる。ご案内いただけますと幸いです。

当スタジオで一人でも多くの方の「健康寿命」の延伸の一助となるよう、栄養・食事を通じて貢献できるよう尽力致します。



臨床と研究の経験を活かし  
生活習慣病の予防と管理に  
貢献していきます

New Chief Interview

新任部長に聞く

関西医科大学香里病院  
内科・総合診療科  
内科部長

**岩嶋 義雄**  
Yoshio Iwashima

地域の先生方には日頃より大変お世話になっております。昨夏より内科総合診療科の内科部長を務めておりますが、今回改めてご挨拶申し上げます。

私は大分大学医学部を卒業後、大阪大学の老年・総合内科学に入局してから高血圧の診療に携わるようになりました。臨床での専門は主に高血圧、そして循環器疾患です。これらは頻度の高い生活習慣病ですが、特に高血圧患者さんが糖尿病や腎臓病を合併していると、高血圧だけの場合に比べて脳心血管病の発症リスクが高まります。私は研究において、高血圧、糖尿病、腎臓病を合併すると、無症状の段階から心臓の機能低下が認められることを明らかにしました。高血圧の治療については降圧薬の選択が豊富にあります。近年はさまざまなエビデンスが確立され、種類や容量など処方を選択肢も従来から広がりました。今後はそういった情報をクリニックの先生方と共有できるように、発信にも力を入れていく所存です。

また、寝屋川市では人口比における透析患者数が全国平均よりも多いのですが、腎臓病の重症化を防ぐには、生活習慣病の管理が非常に重

要になります。当院では腎臓病センター長の高橋医師を中心に、腎臓病の包括的な診療への積極的な取り組みが進んでおり、私も透析専門医として予防管理に尽力してまいります。

高齢になるにつれ、さまざまな合併疾患を有する人が増えます。大規模な病院であれば疾患ごとに医師が対応することもありますが、当院は中規模だからこそ内科・総合診療科として一箇所ですら診られるメリットがあると考えております。内科・総合診療科では、医師それぞれが互いのサプスベシヤリティを活かして連携しており、より高度な診療が必要な場合でも系列の附属病院(枚方)や総合医療センターへ引き継げる点が強みです。地域における生活習慣病診療の発展に貢献できるよう、引き続き地域の先生方との繋がりを強めていきたいと考えていますので、何卒よろしくお願いたします。

PROFILE

- 1995年3月 大分医科大学(現・大分大学)医学部 卒業
- 1995年5月 大阪大学 医学部 加齢医学講座(現・老年・総合内科学)入局
- 1995年5月 大阪大学医学部附属病院 研修医
- 1996年5月 国立大阪病院(現・国立病院機構 大阪医療センター)内科 研修医
- 1997年5月 国立循環器病研究センター 高血圧・腎臓科 レジデント
- 2000年5月 大阪大学 医学部医学科 老年・腎臓内科学 研究生、医員
- 2005年8月 大阪大学医学部附属病院 総合診療部 医員
- 2007年10月 国立国際医療研究センター 研究所 特任研究員
- 2008年8月 大阪大学 医学部医学科 老年・腎臓内科学 医員
- 2008年11月 国立循環器病研究センター 高血圧・腎臓科 医員
- 2011年5月 国立循環器病研究センター 高血圧・腎臓科 医長
- 2019年4月 獨協医科大学 腎臓・高血圧内科 准教授
- 2022年8月 関西医科大学香里病院 内科・総合診療科 内科部長



予防医療の可能性が広がる今、  
あなたのために最適の予防医療を

Speciality Service Interview

センター長に聞く

くずは駅中健康・健診センター  
センター長

浦上 昌也

Masaya Urakami

関西医科大学は、人々の生涯にわたる心身の健康管理に役立てるべく、健診×メディカルフィットネスによる新たな予防医療施設として2022年11月に当センターを開設しました。天満橋総合クリニックにおいて予防医療の経験を活かして、関西医科大学附属病院の健康科学センター長である木村稯医師が共同で施設を運営しています。

私は、総合内科専門医、腎臓専門医として臨床経験を積んだ後に、軸足を予防医療に移しましたが、第2内科時代の恩師である稲田満夫名誉教授の「すべての内科医が、先ず、総合診療医たる意識を持つことが必須である」「総合診療とは、best patient careに徹した医療行為そのものである」という教えは、予防医療にもそのまま通じると考えています。その考えに基づき、当センターでは、個々の特性に応じたオーダーメイドドックを行っています。たとえば、が



んは種類によって発症リスクの高い人、低い人が異なります。ピロリ菌感染も胃炎もない人が胃がんを発症するリスクは極めて低く、毎年内視鏡検査を受けることには必要はないと考えます。他に発症リスクの高い病気があれば、その検査を優先すべきです。当センターでは、受診者さん一人ひとりに「その人にとって最適な健診」を提供できる仕組みづくりを行っています。また、多数を占める「異常がない人」「健康リスクの少ない人」に安心感をお届けするのも大事な役目だと考えています。

一方、フィットネスの特徴は、医師や運動療法士、公認心理士などの専門家のサポートのもと、医療の一環としての運動を提供できる点です。目指すは「健康力レジス」。生活習慣病やがん治療後の患者さんなど、様々の病態のかたに、ご自身の健康状態を理解・学習しつつ、ポジティブに運動に取り組んでいただける環境を整え



主治医と別視点で評価する健康診断。  
糖尿病・内分泌の専門性を強みに。

New Doctor Interview

新任医師に聞く

関西医科大学天満橋総合クリニック  
内科

西村 久美子

Kumiko Nishimura

私は糖尿病と、甲状腺を中心とした内分泌疾患を専門に持ち、これまで関西医科大学の系列病院で経験を積んでまいりました。当院へは昨年春に着任し、初めて経験しているのが健診業務です。これまで臨床医として未治療の患者さんに接することはありましたが、すべてご自身で受診を決めた方ばかりでした。しかし健診の場ではご自身の体の変化に無頓着な方もいらっしゃいます。見つけた些細な異常をいかに意識してもらい、生活習慣の改善や受診へと気持ちに向けていただくか。難しさを実感しながらも、新たなやりがいを感じています。

また、たとえ別で通院中の患者さんであっても、「いち受診者として、主治医と異なる視点から改めて評価する」ということが、大切ではないかと考えています。異なる目で診る、評価することが、地域の先生方への一助となる機会になれば幸いです。

さて、外来部門では専門分野の患者さんを担当していますが、糖尿病や甲状腺の病気がポピュラーな分、新たな治療法もどんどん登場し

ているのはご存じの通りです。糖尿病において近年、検査や治療に用いる医療機器は急速な進歩を遂げつつあり、インスリンポンプもその一つです。インスリンを持続的に注入する小型デバイスを体に装着する方法であり、注射に比べ時間単位で細かく調節が可能、より生理的なインスリン分泌に近いパターンを維持できるというものです。当院へは昨年着任したばかりですが、当該の患者さんはいらっしゃいませんが、私自身はすでに枚方の附属病院で複数の症例を担当してきました。こちらでもニーズがあればすぐにインスリンポンプ療法をスタートしたいと考え、準備を進めています。導入時には入院が必要になりますが、系列病院との連携で対応いたしますので、もし必要とされる患者さんがいらっしゃればご紹介ください。これまで系列各院で培ってきた医師、スタッフとの繋がりを活かしながら、当院でできる診療の幅を広げていきたいと考えています。

PROFILE

- 2007年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2009年4月 関西医科大学 第二内科 入局
- 2010年4月 関西医科大学附属山手病院 内科
- 2011年4月 関西医科大学香里病院 内科
- 2012年4月 関西医科大学附属病院 内分泌代謝内科
- 2021年4月 社会福祉法人大阪福祉事業財団 すみれ病院 内科
- 2022年4月 関西医科大学天満橋総合クリニック 内科
- 関西医科大学附属病院 内分泌代謝内科 (非常勤)

PROFILE

- 1983年3月 関西医科大学卒業
- 1983年5月 関西医科大学附属病院 内科研修医
- 1985年6月 財団法人田附興風会北野病院 内科医員
- 1990年3月 関西医科大学大学院(第2内科学)単位修得
- 1990年8月 国保古座川病院 内科医長
- 1991年11月 関西医科大学第2内科学講座助手
- 1996年4月 財団医療法人 OMMメディカルセンター 入職
- 2002年4月 財団医療法人 OMMメディカルセンター 総合健診センター長(副所長)
- 2005年4月 財団医療法人 OMMメディカルセンター所長(常務理事)
- 2006年4月 関西医科大学臨床教授
- 2012年4月 関西医科大学天満橋総合クリニック院長
- 2022年4月 学校法人関西医科大学 理事長特命教授
- 2022年11月 くずは駅中健康・健診センターセンター長

ています。情報共有のために、かかりつけ医の先生方や予防医療関連施設とも連携を図ってまいりますので、よろしくお願いたします。

AI技術の飛躍的進歩、ウェアラブル端末の進化、リキッドバイオプシーなどの革新的技術が予防医療の現場を大きく変えようとしています。私たちはこれらの技術を積極的に取り入れながら、健康科学センター、天満橋総合クリニックとともに関西医科大学の予防医療を牽引する施設として、今後、どんな内容も充実してゆく所存です。予防医療の目的は早すぎる死を予防し、心身の健康寿命を延ばすことです。当センターは、健診とメディカルフィットネス、2つのアプローチで地域の皆様の健康寿命の延伸に貢献すべく進化してまいりますので、是非ともお見知りおきください。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101(代)  
<https://www.kmu.ac.jp/hirakata/>  
 〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1  
 地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)  
 TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861



■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001(代)  
<https://www.kmu.ac.jp/takii/>  
 〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15  
 地域医療連携部 病診連携課  
 TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488



■ 関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321(代)  
<https://www.kmu.ac.jp/kori/>  
 〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45  
 地域医療連携部 病診連携係  
 TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988



■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005(代)  
<https://www.kmu.ac.jp/kuzuha/>  
 〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1  
 地域医療連携課  
 TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022



■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260(代)  
<https://www.kmu.ac.jp/temmabashi/>  
 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル 3階)  
 TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



■ くずは駅中 健康・健診センター

TEL.072-809-2005(代)  
<https://www.kmu.ac.jp/kuzuhaekinaka/>  
 〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町14-1(京阪くずは駅ビル南館 2階)  
 TEL.072-809-2005

